

西郷 隆盛
(1828年-1877年)

そうぎょう しゅせい たいさい
創業と守成の大材「西郷」と「大久保」

大久保 利通
(1830年-1878年)

<概要>

西郷と大久保、二人の大材が
切り拓いた幕末から明治維新
までの軌跡を辿る！

講師
鹿児島市維新ふるさと館
特別顧問 肥後 秀昭氏

マナビィ
生涯学習マスコット



二人の大材の話を熱心に聴く受講生

☆『※1 西郷は創業の大材、大久保は守成の大材』

〔※1 西郷と大久保それぞれの優れた才能を形容するもの(熊本藩家老 長岡是容(監物)が関係)〕

◎西郷は、幕府を倒して明治政府樹立に貢献 ◎大久保は、明治政府で近代国家建設に尽力

「創業は易し、守成は難し」(新たに事業を興すよりも、それを衰えさせないように守っていく方が難しい)
この言葉は、中国の古典「貞観政要」に由来し、唐の太宗が臣下に創業と守成のどちらが難しいかを問うた際に、魏徴が「守成の方が難しい」と答えた故事が基になっている。⇒ 西郷・大久保については「創業は難し、守成も難し」

☆西郷(創業の大材)と大久保(守成の大材) ～明治維新までの貢献と尽力～

1. 西郷、次第に頭角を現す！

- (1) 島津斉彬の薫陶 ⇒ 西郷の開眼 ⇒ [斉彬は下級武士だった西郷の才能を見抜き、側近として育成(政治/外国情勢/日本の課題などを教育)・重用し、西郷は斉彬を生涯の師として仰いだ]
- (2) 橋本左内、月照(勤王僧)らとの将軍後嗣(あつぎ)問題への取組
主な出来事：安政の大獄<安政5年(1858年)>、斉彬の死(同年5月)、島津久光との会見及び命令無視による(徳之島/沖永良部島に)遠島

2. 西郷と大久保、その活躍<大政奉還・王政復古まで>！

- (1) 西郷不在中の大久保の活躍 ⇒ ①誠忠組をまとめる②実権者島津久光への接近③公武合体と久光上洛への布石
- (2) 西郷と大久保二人の活躍 ①寺田屋騒動(過激な薩摩藩士らを久光命により肅清、禁門の変から長州征討へ(西郷、再び天下へ)
②西郷、勝海舟と会談 ⇒ 「西郷、第2の開眼…幕藩体制を「日本」の目で見、「世界の中の日本」という目でみる」
③幕府守旧派と大久保の朝廷工作、長州再征、兵庫開港阻止工作、薩長同盟<慶応2年(1866年)>、薩土盟約<慶応3年(1867年)6月>
④徳川慶喜の大政奉還<慶応3年(1867年)10月>と討幕の密勅、※2王政復古クーデター<慶応3年(1867年)12月>
〔※2王政復古の号令<摂政・関白・征夷大將軍を廃止し、總裁・議定・参与の三職を新設置(江戸幕府の終焉・明治政府誕生を意味する)>は、天皇中心の明治政府樹立を宣言した政令で、薩摩・土佐・長州などの藩兵が御所を包囲し、反対派を排除したうえで天皇に「王政復古の宣言」を求めた武力による政変(クーデター)〕

3. 新政府樹立<慶応4年(明治元年9月改元)(1868年)1月>と軍人西郷の大英断

- ①新政府樹立 ⇒ 薩摩藩焼き討ち事件/鳥羽伏見の戦い勃発/戊辰戦争(西郷、東征大総督府下参謀)/江戸城無血開城(勝海舟と会談)
②廃藩置県<明治4年(1871年)> ⇒ 「異説を唱えるものがあれば、西郷が御親兵を率いて打ちつぶす」西郷の大英断(宮中会議にて)

4. 西郷と大久保の対立 <明治六年政変(征韓論政変)から西南戦争へ>

- ・明治六年政変 ⇒ 明治6年(1873年)に発生した明治政府内の政変で、征韓論を巡る対立から西郷、板垣ら参謀/軍人/官僚などが辞職。直接の原因が征韓論にあったため、征韓論政変ともいう。この政変により、大久保らを中心とした内治派が政権を確立。
・西南戦争 ⇒ 政府の近代化政策(特に徴兵令/廃刀令/秩禄処分など士族優遇政策の廃止)や西郷ら旧士族の不満が背景となり、明治10年(1877年)に鹿児島で勃発した武力衝突。

5. 守成の大材 大久保<明治新政府における活躍>

- ①内務卿 大久保…内務省創設<明治6年(1873年)>し、事実上の政府の実権掌握⇒ ※3富国強兵、殖産興業などの近代化政策推進
<※3日本を近代国家として発展させるためのスローガンで、国を豊かにし(富国)、強い軍隊を作ること(強兵)を目指した政策>
②不平士族の反乱鎮圧…佐賀の乱・神風連の乱・西南戦争鎮圧<明治10年(1877年)、西郷、鹿児島城山にて自刃>し、政府の権威確立
③殖産興業政策…富岡製糸場、下総種畜場の設立、内国勸業博覧会<明治10年(1877年)>開催などを推進、尽力
・(公共事業に私財まで投じるなど)私欲なく日本の近代化に欠くべからざる働きをするも、明治11年(1878年)東京紀尾井坂で不平士族に暗殺された

☆まとめ 西郷隆盛は創業の大材、大久保利通は守成の大材！！

西郷は判っていた！

『われは築造することにおいて遙かに甲東(=大久保)に優っていることを信ずる。しかし、建築を終わり、造作を施し室内の装飾をなし、一家の觀を備うるまでに整備することにおいては、実に甲東に天稟(てんびん=天賦の才能)あり』 <西郷談>

取材を終えて：大人数で満席となった室内は、熱気に包まれ、講師(鹿児島の肥後さん)の流れるような語りに魅せられて、あっという間の90分でした。今回も皆さんのご協力ありがとうございました。(くまもと県民カレッジ広報ボランティア H.K作成)

